

令和3年度 山梨県立大学教職員表彰 対象者

山梨県立大学では、平成22年度に「学長表彰」の制度を設け、教育・研究や社会貢献等で特色ある顕著な業績を挙げ、大学の発展に貢献した本学教職員に対し、毎年表彰を行っています。

具体的には、次のような活動で顕著な功績があった方々を表彰の対象としています。

1. 職務上特に顕著な功績があった者
2. 法人の名誉を高める行為を行った者
3. その他特に他の教職員の模範として推奨すべき功績があった者

令和3年度は、以下の8名を表彰いたしました。

【優秀教職員賞(敬称略)】6名(教員5名・職員1名)

- 人間福祉学部 人間形成学科 准教授 太田 研

活発な研究活動(査読論文2, 他論文2、学会発表3、報告書1)に加え、外部資金(科研費代表1件、その他の研究費助成代表1件、分担1件)も獲得し、積極的に研究を進めた。また、社会活動も熱心に取り組み、山梨県社会教育委員、山梨県教育委員会調査研究会委員を務め、山梨県の教育施策の推進に多くの貢献をした他、日本授業UD学会代議員として学会運営にも力を注ぐなど、社会貢献活動にも熱心に取り組んだ。教育においても、常に工夫した授業を行い、学生たちからはわかりやすく、興味関心を高める授業であるとの高い評価を得た。

- 看護学部 看護学科 教授 宗村 弥生

科研費(基盤B)を研究代表者として獲得して研究に取り組み、研究発表や論文投稿を行い、研究成果を社会に発信した。また看護学実習委員会委員長として、コロナ禍での臨地実習が見通せないときに、実習日程やPCR検査の調整等を的確に実施し、学生が実習目標を最大限達成できるよう活動した。

- 看護学部 看護学科 講師 山北 満哉

科研費(基盤C)および明治安田厚生事業団研究助成を研究代表者として獲得し、継続して研究に取り組み、論文を発表した。その研究活動のあり方は、他の教員の模範となっている。また入試委員会前期日程の実施リーダーとして、実施体制の構築や調整を行い、円滑な入試業務の遂行に尽力した。

- 国際政策学部 総合政策学科 教授 箕浦 一哉

外部有識者として山梨日日新聞社の第三者機関「山日と読者委員会」10期委員に就任

し（全5名、任期2年）、大学で得られた学生の講堂に関する情報を通じ、若者目線で見た報道の必要性など、学報道の質の向上を図るために貢献した。また、本学の学生たちと共に「甲府気候若者会議」を立ち上げ、若者の環境問題への関心を促すだけでなく、学生の社会参加に対する意識の向上に努めた。

● 国際政策学部 国際コミュニケーション学科 准教授 大村 梓

山梨県出身やゆかりの文学者の資料を調査・研究し、文学に関する知識教養を深め、文化の発展に寄与するために設立された山梨県立文学館において、「ジャンルを超える文学の可能性『ミステリー小説の系譜－江戸川乱歩から東野圭吾まで』」をはじめとして、4回の講演会講師を務め、文学館の活動に貢献した。また、若い世代に創作や情報発信の楽しさを知ってもらおうと文学館が展開した、手作りの小冊子「ZINE（ジン）」を活用した取り組みとコラボレーションして、文学館が開催した「ZINEフェスティバル」においては、ゼミ生が多数のジンを制作し、作成したジンの展示を通じて、文学館事業への貢献と学生の個性や自由な発想の表現機会を創出した。

● 事務局 総務課 副主査 一瀬 雄

新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種において、文部科学省、厚生労働省、山梨県、山梨大学等、多くの関係機関との調整を行い、延べ約3000人の接種を計画通り安全に実施することに大きく貢献した。また、大学施設について、単に長寿命化計画に基づいた施設整備計画を作成するだけでなく、地方交付税措置のある県債を活用できる内容に見直したことで、本学の財政負担を軽減した。

【若手研究者奨励賞(敬称略)】(2名)

● 国際政策学部 国際政策学科 講師 松井 亮太

日本経営倫理学会 水谷雅一（論文）賞 優秀賞 受賞(令和3年6月19日)

「福島第一原子力発電所事故前の津波想定における集団思考－調書の質的データ分析を通して－」

● 看護学部 看護学科 助教 高取 充祥

第24回日本救急医学会 中部地方会 総会・学術集会 優秀演題賞受賞(令和3年12月4日)

「高度救命救急センターにおける光環境の実態」